

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【日高振興局】 重点プロジェクト〔梅産地の競争力強化と労働力確保対策〕
～ウメの葉を吸汁する新害虫「モモヒメヨコバイ」の発生調査～

令和4年10月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-3
1. 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
2. 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕 ～下津町農業士会が下津第二中学校で「下津みかん出前授業」を開催～	
3. 和海地方農村青年交流会を開催 ～極甘みかん収穫体験と地元カフェでの交流会～	
4. 農業学習会で稲刈り体験を開催	
II 那賀振興局	4-7
1. 名手小学校で「かきの出前授業」を実施	
2. 試験場現地研修会の開催～紀の川市環境保全型農業グループ～	
3. 紀の川市農業士会研修会&役員会の開催	
4. 研修会「有機質肥料の上手な使い方」の開催～那賀地方有機農業推進協議会～	
5. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
6. クビアカツヤカミキリ悉皆調査	
III 伊都振興局	8
1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施	
IV 有田振興局	9
1. 温州みかんの出前授業を開催	
2. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査	
V 日高振興局	10-11
1. 重点プロジェクト〔梅産地の競争力強化と労働力確保対策〕 ～日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議の開催～	
2. 重点プロジェクト〔梅産地の競争力強化と労働力確保対策〕 ～ウメの葉を吸汁する新害虫「モモヒメヨコバイ」の発生調査～	
3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が「日高 味の情報交換会」を開催	

VI 西牟婁振興局	12-15
1. 消費者を産地に招き、みかん採り体験を通じて生産者と交流	
2. 田辺市立鮎川小学校でうめの消費PR活動を実施	
3. 西牟婁地方生活研究グループがリーダー研修会を開催	
4. 西牟婁地方4Hクラブが地元市場で研修を実施	
VII 東牟婁振興局	16
1. 古座川果樹研究会がうめせん定講習会を開催	
VIII 農林大学校	17
1. 1年生が県内の試験場や直売所で研修	
IX 就農支援センター	18-19
1. 令和4年度技術修得研修(第2班)開講	
2. 産地研修(紀北)を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

10月3日、海南市下津町内にある「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏の温州みかん園において本年度2回目の研修会を開催し、温州みかんを栽培している新規就農者やわかやま農業MBA塾修了生、農業士ら22名の参加があった。

研修会では、橋詰氏からこれまでの気象状況や樹の生育、果実品質の推移と各生育ステージにおいてどのような管理をしてきたか詳細な説明があり、受講者は熱心に聞き入った。

毎年安定した着果量を確保するためには施肥管理が重要との説明の中で、受講者から施肥の時期や量、種類等についての質問があり、夏肥の必要性や液肥の活用等に加え、「肥料の値段が高騰しているが、施肥量を少なくして隔年結果させては意味がない」との助言もあった。

せんだいの時期に3回目の研修会を計画しており、農業水産振興課では、今後も「匠の技 伝道師」がもつ技術を若手農業者等へつなげる活動を行っていく。



熱心に質問する受講生



樹体を前に説明（秋芽の処理）

2. 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕 ～下津町農業士会が下津第二中学校で「下津みかん出前授業」を開催～

10月27日、下津町農業士会（会長：井辺耕平氏）は下津みかん産地の将来を担う子どもたちに産地の現状や課題、農業の魅力等を学んでもらうことを目的として、下津第二中学校2年生（44名）を対象に「下津みかん出前授業」を開催した。

はじめに、岩橋普及指導員から「下津みかん」及び「日本農業遺産（下津蔵出しみかんシステム）」を説明した。続いて農業士会員3名からみかん栽培の魅力や農業のやりがいを紹介し、みかんの試食も行った。

その後、生徒がグループに分かれ、①みかんの消費拡大、②農業を仕事にする条件

をテーマに討議を行い、まとめた意見をグループごとに発表した。グループからは「SNSやCM等を活用して下津みかんをPR」、「みかんの栄養価と健康への効能を紹介」、「会社を作って、安定した収入を確保する」等、様々な意見が発表された。

今回の出前授業は農業士会員と中学生双方にとって、地域の特産である下津みかんについて深く考える大変良い機会となった。

当課では、今後も地元の子どもたちが農業に興味を持ってもらえるような活動の支援を行っていく。



意見発表

3. 和歌山地方農村青年交流会を開催

～極甘みかん収穫体験と地元カフェでの交流会～

10月29日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：吉見将人氏）及び海南市4Hクラブ連合会（会長：船橋遼司氏）主催で和歌山地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域の農産物、伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力、農業・農村生活に関する理解、関心を深めることを目的として毎年開催している。

今回は県内各地から女性5名、男性8名の参加があった。「海南市下津町内カフェKAMOGO」でトーク会を開催し、自分の農業についての話などで交流を深めた後、みかん園地にて完熟ゆら早生の収穫体験を行った。みかんの採り方や美味しいみかんの見分け方などを説明しつつ、収穫作業を体験してもらった。また、下津地域の産地の特徴を説明し、農業や地域への興味を深めてもらう機会となった。

参加者からは、「みかんについて勉強になった」、「なかなか体験できないことを経験できて良かった」などの感想が寄せられた。

当課では、今後も主催団体の活動を支援しながら、農業者と消費者の交流の場を作っていきたいと考えている。



トーク会の様子



収穫体験

4. 農業学習会で稲刈り体験を開催

10月13日、和歌山大学教育学部附属小学校は、農業学習会として5年生88名を対象に、和歌山市梅原の貴志正幸氏のほ場で稲刈り体験を開催した。

貴志氏から稲刈鎌の使い方や稲束の結び方などについて説明を受けた後、刈り取り作業を行った。児童たちは、鎌を使った刈り取り作業や、稲束をひもで結ぶ作業に苦労していたが、貴志氏の指導を受けながら作業を行い、稲刈りについて学んだ。

また、収穫した稲束を乾燥させるための「はさがけ」作業も併せて行った。

体験後には、児童から「普段稲刈りをするときは機械を使うのか」、「雑草を減らすのにどのような工夫をするのか」等、農業に関する質問があり、貴志氏は一つ一つ丁寧に応じていた。

当課では、今後も小学生を対象とした農業教育の支援を行っていく。



貴志氏による稲刈り作業の説明



児童による稲刈り作業

Ⅱ 那賀振興局

1. 名手小学校で「かきの出前授業」を実施

10月7日、農業水産振興課では紀の川市立名手小学校の6年生40名を対象に、かきの出前授業を行った。この授業は、児童に県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに、果樹園芸課長から児童代表にかきの贈呈が行われた後、南方普及指導員が県内におけるかきの生産状況について、統計値や栽培品種、栽培から出荷までの農作業なども含めて説明した。

質問コーナーでは、「黒いかき（紀の川柿）について教えてほしい」、「甘柿と渋柿はどうやって見分けるのか」、「県内で栽培されている品種は何種類ぐらいか」といった質問が出された。

授業の後、児童は当課が用意した14品種のかきを実際に手に取り、形や色の違いを確かめていた。

当課では、今後も地域の特産物を使った食育を推進していく。



贈呈式



柿のお話

2. 試験場現地研修会の開催

～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）が、10月12日にかき・もも研究所、13日に農業試験場で、現地研修会を行った。

かき・もも研究所には10名、農業試験場には9名が参加し、各試験場で取り組んでいる試験研究内容についての説明を受け、その後ほ場を視察した。

参加者からは「紀州てまり」、「紀州あかね」の栽培方法と注意点やももの「みつ症対策」への対処方法、有機・環境保全型農業関係での今後の研究について等の質問があり、研究員が丁寧に説明した。

参加者は、これをきっかけに地元試験場との関係を深め、営農上の疑問点等を相談

したいと話していた。

当課では、グループの自主的な取組を今後も支援していく。



講義の様子（かき・もも研究所）



ほ場見学（農業試験場）

3. 紀の川市農業士会研修会&役員会の開催

10月18日に地域農業のリーダーとしての活動や農業後継者の育成指導に取り組んでいる紀の川市農業士会（会長：妹背克紀氏 会員：110名）が農業士の資質向上と会員相互の連携を目的とし、研修会と役員会を開催した。

研修会は、前回の役員会において「頑張っている農業者の声を聴きたい」との意見が出されたことから、野菜・花き・果樹生産と法人経営によるあんぼ柿加工販売を組み合わせた経営に取り組む元指導農業士の小川教雄氏から「我が家の農業」と題し、講演を行っていただいた。

参加者からは「スタッフはどうやって確保してきたのか」、「加工に取り組んだきっかけは」などの質問が出された。

当課では、今後も会員の要望を取り入れながら運営を指導していく。



研修会の様子

4. 研修会「有機質肥料の上手な使い方」の開催

～那賀地方有機農業推進協議会～

10月18日、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和氏）では、肥料価格高騰を受け、現在の肥料情勢や今後の状況、有機質肥料の利用方法について学ぶため、有機配合肥料等多くの肥料を扱う川合肥料株式会社営業部の高橋陽平氏を講師に招いて、オンライン研修会を開催し、23名が参加した。

参加者は講演終了後「資材の値段が上がる要因で分かっていることはないか」、「価格高騰に対して農家側はどのようなことができるか」等、積極的に質問を行っていた。

高橋氏はアンモニアや骨粉、カニ殻や魚カスの生産量が減少気味なこと、できる限り地場産の肥料を活用し国内消費で賄うよう進めていく等回答していた。

当課では、会員らによる自主的な取組を今後も支援していく。

有機質肥料の種類と概要		
	商品	主な効果
有機質肥料	魚粕・菜種粕等 N 高 施用量 少	緩効性の肥効 Nはタンパク質乾燥物
堆肥	牛ふん堆肥 バーク堆肥等 N 低 施用量 多	土壤物理性の改良 Nは主に微生物
発酵肥料	ボカシ肥料 N 高 施用量 少	比較的早い肥効 +微生物 Nはアミノ酸～タンパク質

講義資料 有機質肥料の種類と概要

5. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

10月20日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）は県植物公園緑花センターでリーダー研修会を開催し、各市グループリーダーと市県担当者19名が出席した。

コロナ禍が長引く中、参加者に少しでも外の空気を吸ってもらい、リラックスした時間を過ごしてもらいたいと、昨年度に引き続き寄せ植え体験を実施した。

研修会では、講師から「背の高い花を後ろに、低い花は手前に配置し、植え付け前に一度机の上で並べてみる」、「テレビ番組などでは植え付け時に『根を崩す』と説明されることが多いが、植え痛みの原因になるので、ポットに根が回っている時以外はそのまま植えるほうが良い」、「花が育つとボリュームが増して外側に広がるので、できるだけ中心へ寄せて植えるのがコツ」といった説明を受けた後、参加者はそれぞれの寄せ植えに挑戦した。

会員からは「先生のアドバイスを参考に挑戦したら、お店にあるような引き締まった寄せ植えができた」、「寄せ植えのコツを知ることができたので、家でもやってみたい」、「コロナが治まっているこの時期に研修会ができて良かった」といった声が聞かれた。

体験後は、各市生活研究グループ会長から最近の活動内容について紹介があり、コ

コロナ禍で活動に制約を受ける中、それぞれのグループが工夫して活動を行っていることを参加者で共有した。

当課では、今後も各種研修会を通じて協議会活動を支援していく。



寄せ植え体験の様子



各市活動紹介の様子

6. クビアカツヤカミキリ悉皆調査

10月20日、21日にJA、NOSA I、各市役所、試験場、振興局で構成される那賀地方病害虫防除対策協議会（会長：下田和 敬二氏）が主催で、管内のクビアカツヤカミキリ悉皆（しっかい）調査を行った。

対象地区は、令和4年に新たに被害が確認された園地を中心に、半径1km圏内にあるもも・すもも・うめ園地とした。

もも141園、すもも18園、うめ69園を調査したところ、もも園で2本、うめ園で1本の新たな被害が確認された。

昨年に比べ、被害エリアは増加傾向にあり、当課では関係機関と連携し、早期発見・早期駆除の実践と啓発に取り組む。



調査の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施

伊都地方農業振興協議会（市町、JA、NOSA I、農業水産振興課で構成）は、地域農業への理解を深めるとともに、伊都地方特産のかきの美味しさを知ることによる地産地消の推進を図るため、平成13年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。本年度で21年目となり、令和3年度までに訪れた小学校は、のべ415校（対象児童数：21,533人）になる。

10月は、管内と和歌山市、守口市、和泉市の10校の小学校において、527名の児童を対象にかきのお話しと渋抜き体験を実施した。

かきのお話しでは、和歌山県が日本一のかき産地であることや、かき農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて楽しみながら紹介した。

また、かきの渋抜き体験では、渋がきのへたを焼酎に浸けてから袋に入れ、密閉することで脱渋処理を行い、処理後5～7日後に渋かったかきがおいしく甘いかきに変わることを説明した。

11月からは、体験内容を吊るし柿体験に変更し、引き続き実施していく予定である。

協議会では、この取組を伊都管内だけでなく、消費地である都市部の小学校にも広げ、より多くの児童に和歌山の特産品であるかきに親しんでもらいながら、食育や消費拡大へ繋げていけるよう取組強化を考えており、当課も引き続き協力していく。



かきのお話し



かきの渋抜き体験

IV 有田振興局

1. 温州みかんの出前授業を開催

農業水産振興課では、10月6日、有田川町御霊小学校（3年生、59名）と10月19日、有田市立宮原小学校（3年生、43名）で地元産業（農業）の理解と食育推進のために、温州みかんの出前授業を行った。最初にそれぞれの学校付近の園地で、農業士会員と普及指導員による指導のもと収穫体験を行い、収穫後は糖度や栄養成分を説明し、最後に全員で有田むきに挑戦してみかんの試食を行った。

摘果、収穫体験と1年を通じて学習したことで、みかんづくりの苦労や収穫の喜びを子ども達は体験することができた。

今後も、当課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



みかんの栄養成分について説明
（御霊小学校）



収穫体験（宮原小学校）

2. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査

もも・うめ・すももなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害が県北部で拡大している。このクビアカツヤカミキリが有田地域に侵入していないか確認するため、JAありだと共同で10月4日、5日、12日に巡回調査を行った。調査は10園地、すもも147樹、もも42樹、うめ73樹で行った。

今回の調査で被害は確認されなかったが、引き続き調査を実施することにより早期発見に努めるとともに、チラシ等による啓発活動を行っていく。



巡回調査の様子



クビアカツヤカミキリの啓発

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト〔梅産地の競争力強化と労働力確保対策〕

～日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議の開催～

10月12日、クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、日高振興局で会議を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により開催は2年ぶりとなり、当日は会員である各市町、JA紀州、日高振興局（当課、林務課、衛生環境課）、うめ研究所に県庁農業環境・鳥獣害対策室を加えた計21名が出席した。

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されている害虫で、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木の内部を激しく食害する。県内では、2019年11月にかつらぎ町で初めて本虫による被害が確認された後、県北部で被害が急速に拡大しており、今後日高地方への侵入が強く懸念されている。

会議では、県北部における現状と被害対策状況と試験研究の取組状況について情報共有するとともに、万一日高地方で本虫の発生が確認された場合に、迅速に被害拡大防止策を講じることができるよう、初動調査の方法及び各所属における担当窓口など詳細な体制について取り決めた。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やうめ園地の巡回調査を行うとともに、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布、マスコミの活用等により、生産者及び一般住民への啓発を行っていく。



連絡会議

2. 重点プロジェクト〔梅産地の競争力強化と労働力確保対策〕

～ウメの葉を吸汁する新害虫「モモヒメヨコバイ」の発生調査～

10月20日、うめ研究所、JA紀州、当課は、うめ主産地であるみなべ町内全域を巡回し、モモヒメヨコバイの発生調査を行った。

モモヒメヨコバイは、モモ、スモモ、ウメなどのバラ科樹木の葉を吸汁する外来の微小害虫である。発生が多くなると激しい吸汁により葉全体が白化し、落葉する場合もあるため、長期的には樹勢や収量への影響が心配される。和歌山県では、2019年に初めて被害が確認された後、急速に分布域を拡大しており、今後のうめ栽培への影響が心配されている。



モモヒメヨコバイ発生調査（みなべ町）

調査では、激しい吸汁被害が認められる地域は一部に限られたものの、ほぼ全域で本虫の発生が確認された。

本虫は周囲の常緑樹で越冬する事例が報告されており、現在目立った被害が認められない園地でも、予期せず被害が拡大する可能性がある。早期発見が防除対策の鍵となるため、今後も継続的にウメ園の巡回調査を行うとともに、研修会の開催や防除啓発チラシの作成・配布等により、生産者への啓発を行っていく。

3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が「日高 味の情報交換」を開催

10月13日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）が日高川交流センター（日高川町）において「日高 味の情報交換会」を開催した。

新型コロナ対策のため参加人数を制限しての開催となったが、会員に加え紀州日高漁業協同組合女性部と明日を考える会（印南町）からも参加があり、来賓・関係者等合わせて67名が出席した。

これまでは、「味交換会」として、各グループが郷土料理や地元の食材を用いたアイデア料理等を持ち寄って互いに試食し、意見交換や交流を図る形での開催であったが、今回は新型コロナ対策のため、飲食を伴わない形式での開催となった。

まず、「食品加工とネット物販の今後の可能性」と題して、食品加工・販売「CONSERVA」代表の金丸知弘氏による講演があり、金丸氏の東京から田辺市龍神村に移住した経験から、田舎の住みやすさや田舎でのビジネスなどについて話があった。

次に、8つのグループが、それぞれパワーポイントを用いて、郷土料理や地元食材を用いたアイデア料理を紹介した。各料理が考案された背景や調理する際のポイントなどを交え、レシピを共有した。

閉会後には展示直売会が催され、各グループの加工品や農産物の販売を通じ参加者同士が交流や情報交換を行った。

コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となったが、グループ会員らは互いに情報発信と交流できたことを喜び、盛況のうちに終えることができた。今後も当課ではグループの活動支援を行っていく。



金丸知弘氏の講演



御坊市生活研究グループによる料理紹介

VI 西牟婁振興局

1. 消費者を産地に招き、みかん採り体験を通じて生産者と交流

都市と農村の交流事業実行委員会（委員長：麿 充氏）は、JA紀南、上富田町及び町内生産者、西牟婁振興局で構成され、主力品目のうめ、みかんの消費拡大に取り組んでおり、10月4日にコープこうべの関係者を招き、みかん採り体験を実施した。

この取組は、安全・安心な食品づくりをめざすコープこうべのプライベートブランドである「フードプラン」を通じ、みかん園地（農薬・化学肥料の削減、マルチ設置）や販売店舗における生産者と消費者との交流の場として、20年以上前から行っている。

新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった今回は、来年度からの本格実施に向けた試行として人数を制限し、17名の参加となった。

歓迎セレモニー、昼食の後、みかん園地に移動し、農業水産振興課上山普及指導員から、おいしいみかんの見分け方や採り方の説明を受け、持ち帰り用のかご一杯になるまで、思い思いに収穫を楽しんだ。

参加者は、生産者と話をしながら試食も行い、新鮮で濃厚な味や傾斜地でのみかんづくりの苦労を実感していた。

うめの交流事業は今年度も中止となったが、みかんと同じく来年度に本格実施する予定であり、当課も同会の活動を支援し消費拡大につなげていく。



歓迎セレモニー



みかん採り体験

2. 田辺市立鮎川小学校でうめの消費PR活動を実施

10月17日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：田中直美氏）は、子供たちにうめについて知ってもらい、消費拡大に繋げようと田辺市立鮎川小学校4年生の児童21名を対象に、うめの座学と梅ジュースづくり体験を行った。

座学では、パワーポイントで竹内明子副部会長が「うめの一年」について、うめの花や生長する様子、栽培方法、梅干しができるまでの作業等を丁寧に説明した後、当課の山下普及指導員から梅ポリフェノールの新型コロナウイルスへの阻害効果に関する研究報告について、説明を行った。

次に、竹本京子部会員が梅ジュースの作り方を実演し、児童が冷凍梅と氷砂糖を使ってジュースづくりを体験した。その後、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会の北川翔大会長と梅田純也副会長が、牛乳と梅シロップを混ぜた「梅ラッシー」の作り方を実演しながら説明した。児童からは、「梅ジュースは、いつできるのか」、「梅ラッシーはヨーグルト味でおいしかった。家でも作りたい」等の質問や感想があった。

さらに、家庭や学校の給食に使ってもらえるよう、当部会で作成した梅料理レシピとJA紀南の梅干し（試食用）も配布した。

当部会では、今後も子供たちにうめの座学や加工体験を通じてうめの魅力を伝えるとともに、保護者へもPRを行い、うめの消費拡大活動を積極的に行っていく予定である。



うめの座学



梅ジュースづくり（実演）



梅ラッシーの紹介（説明）



梅ラッシーの実演

3. 西牟婁地方生活研究グループがリーダー研修会を開催

西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）は、地域の産物であるイタドリの特性や栽培方法、加工方法及び機能性を生かした加工品等を学ぶことを目的に、10月24日、県林業試験場においてリーダー研修会を開催し、23名が出席した。

講師の県林業試験場の杉本小夜主査研究員から、「郷土山菜ゴンパチ（イタドリ）の栽培と利活用」と題して講話があり、イタドリの部位や収穫時期により、加工の際に必要な皮むきの難易に違いがあること、塩漬けなどの保存方法の紹介や県工業技術センターのデータをもとにシャキシヤキとした歯ごたえの残すための下処理方法の紹介を受けた。

また、場内ほ場にて安価なワイヤメッシュを使った簡易な獣害防止柵の紹介があり、表と裏を間違えないようにすることや上部を外側に曲げることなどの説明を受け、会員からは、「イタドリに雄株と雌株があるとは知らなかった」、「茎が細いものより太いものは美味しいのか」などの感想や質問があった。

当会では、各支部で試作したイタドリ料理の試食会を行い、レシピ集としてまとめていく予定である。



講話



獣害防止柵の紹介

4. 西牟婁地方4Hクラブが地元市場で研修を実施

10月27日、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：北川翔大氏）は、うめの需給動向を中心に調査するため、田辺中央青果株式会社を訪問し、果実部担当者から市場の販売実績について説明を受けた。特に今年は作柄や他市場の単価により入荷量が大きく変動しており、需要と供給ともに減少する中、加工梅の荷動きが鈍っているとのことであった。

クラブ員からは、各品種に対する仲買人の声や、今後の需要の見通しについて、質問が相次ぎ、自分たちが出荷した後の市場の動きを知る貴重な機会となった。

当課では、地域の特産品であるうめの消費拡大に向けた当クラブの活動を引き続き支援していく。



会長挨拶



場内見学

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 古座川果樹研究会がうめせん定講習会を開催

10月28日、古座川果樹研究会（会長：新屋常夫氏）は、うめせん定技術の向上のため、研究会会員のうめ園4カ所でせん定講習会を開催し、生産者5名、農業水産振興課職員2名が参加した。

はじめに、当課岩橋普及指導員からせん定の基本技術の説明を行い、その後、上門普及指導員がせん定講習を行った。

講習会では、各園地で樹齢や栽培方法、獣害の有無等の条件が異なることから、園地状況に応じた栽培管理方法を指導した。また、今年の収穫状況やクビアカツヤカミキリの県内での発生状況、農作業事故防止等の話も交えながら行われた。

当課では、今後もうめの新技術や安定生産・高品質化を図るため、研究会の活動を支援していく。



せん定基本技術の説明



主枝、亜主枝の配置を確認

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生が県内の試験場や直売所で研修

10月6～13日、1年生の園芸学科11名が試験研究機関で、アグリビジネス学科3名が農産物販売所で研修を実施した。

試験場研修は、各専攻分野の知識・技術研鑽を目的に実施している。野菜専攻生5名は農業試験場に、果樹専攻生6名のうち2名は果樹試験場、4名はかき・もも研究所に分かれ、各機関の取組や農作物の栽培について学んだ。学生は、研究員の指導を受けながら運搬用ドローンの操作体験や、新品種の調査、薬剤散布による害虫発生への影響を調査する等、初めての実習にも一生懸命取り組んでいた。

また販売研修は、農産物販売所での業務体験を通じ、農産物の流通や販売方法を学ぶことや、消費者ニーズを把握することなどを目的に実施している。学生は、それぞれの直売所で鮮度チェックや商品の陳列、レジ打ちなど、直売所ならではの作業に悪戦苦闘しながら研修を受けていた。

学生の指導にあたった皆様に感謝するとともに、学生には今回の経験を活かした今後の活動に期待したい。



研究員とともに調査をする学生



スマイルで接客する学生

IX 就農支援センター

1. 令和4年度技術修得研修（第2班）開講

10月3日、就農支援センターにおいて、8名の受講生を迎えて技術修得研修（第2班）を開講した。

午前中は開講式に引き続き、県内の果樹・野菜・花きの産地と概況について講義を行った。午後はいちじくの収穫・出荷調整及び果樹園の草刈りについて実習を行った。

今後、研修生は、10～2月の5カ月間、全25日間の講義と実習を通じて、農業の基礎知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。



技術修得研修の開講式



[実習]いちじくの出荷調整

2. 産地研修(紀北)を開催

10月20日、令和4年度の特別研修の第二弾として産地研修(紀北)を開催した。今回の産地研修(紀北)は3年ぶりの開催であり、紀北地域の3戸の先進農家の実践的な生産技術、農業経営等を学ぶことを目的に実施した。

研修では、まず有田郡広川町の長谷光浩氏を訪問し、「柑橘類の栽培と加工並びに経営について」として、長谷氏がこれまでに行ってきた生産から加工、販売までの取組を紹介していただき、研修生との質疑応答を行った。

次に、紀の川市桃山町段の現地ほ場において、小川真司氏より「葉ぼたんの栽培と経営について」として、大規模な葉ぼたん栽培や販売方法を中心に、たまねぎやミニトマト、きゅうり、かきなどとの複合経営等、多岐に渡る内容を解説いただき、質疑応答を行った。

最後に、和歌山市平尾の現地ほ場において、栩野雄平氏より「いちごの栽培と経営について」として、炭酸ガス施用機をはじめ最新の設備などについて実物を見ながら解説していただき、就農後にどのようにしてステップアップして規模拡大を図ってきたか、苦労した点は何だったか等についても説明いただいた。

今回の産地研修を通じて、研修生は3戸の先進的な農家の話を聞き、色々と視野を

広げることができた。ある研修生は、「栽培を希望している品目が今回の研修先にあり、大変参考になった」「今回の産地研修でご縁ができたので、今後生かしていきたい」と話していた。



柑橘類の栽培と加工並びに経営について
(長谷光浩氏)



いちごの栽培と経営について
(栩野雄平氏)

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489